

## <書籍紹介>

### 「ふたりのために」

著者：ジョナサン・ベネディクト

- ・対象：結婚を考えているカップル、教会の青年会
- ・方法：結婚前カウンセリング、グループでの読書会の兄弟として
- ・回数：（1章につき1回として）6回

#### 1. この本を読むにあたって

**著者：**ジョナサン・ベネディクト

1956年、山口県岩国市生まれ。Christian International College 神学科卒業。1980年より日本で宣教師として働く。清泉女学院短期大学講師。ファミリー・フォーラム・ジャパン理事。妻ベッキーとの間に4男6女。

**出版社：**ファミリー・フォーラム・ジャパン

**出版年：**2002年4月

#### **本の要点：**

この本は、序文で著者自身が紹介しているとおり、「聖書を土台として書かれた結婚ハンドブック」です。そのことは著者自身が宣教師であるところから当たり前のことですが、読者対象はあえて、教会に行っていない、聖書を読んだことのない未信者の方を想定しています。ですから、結果的にクリスチャンの方々が読まれても、分かりやすい内容、構成となっています。特に、著者自身の経験を具体例として取り上げ、未信者の読者の理解を助けています。

120ページほどの本ですが、2～3時間もあれば十分読める文章量ですので、学びの前にそれぞれが一読して、感想を分かち合うとより良い学び、カウンセリングが期待できます。

## 2. 本の内容

第1章：結婚の三つの柱

①離れる、②結び合う、③一体となる

第2章：新婚1年目…きずなを強めるためのアドバイス

第3章：夫婦間のコミュニケーション

①問題提起、②耳を貸すこと、③励ますこと、④あきらめないで

第4章：上手なケンカの解決法

①問題提起、②衝突は必ず起こる、③具体例、④解決するためのヒント

第5章：夫婦で協力する子育て

①聖書の教えを土台とした子育て、②子どものしつけ、③謝ること、④誉めること、④夫婦のチームワーク

第6章：一番重要な鍵

①結婚を通して見えてきた自分の姿、②不完全な私、③共に年をとる

## 3. 確認コーナー

・第1章から

①あなたは、結婚とは何であると考えていますか。

②聖書が教える「結婚の三つの柱」とは、何ですか。

③結婚に対する自分の考えと聖書の教えとでは、どのように違っていましたか。それに対して、どのように思いましたか。

・第2章から

①結婚を願う相手と、どのようにして絆を深めようと思いますか。

②第2章に書かれていた「新郎、新婦へのメッセージ」を読んで、どう思いましたか。

・第3章から

①結婚を願う相手とのコミュニケーションについて、考えたことがありましたか。

②第3章をとおして、二人の間に何か足りない点がありましたか。

・第4章から

①今まで、周りの人とのケンカをどのように解決してきましたか。

②ここに書かれていた「解決のためのヒント」は参考になりましたか。

・第5章から

①子どもをしつけることを、どのように思いますか。

②幼児虐待としつけとは、どのように違うと思いますか。

③子どものしつけについて、夫婦でどのように協力できると思いますか。

・第6章から

①(これまでの学びを踏まえて)結婚生活において、一番大切なことは何だと思いますか。

②(これまでの学びを踏まえて)聖書が教える夫婦についての言葉から、どの言葉が印象に残っていますか。